

OB会報

湘南サッカー一部OB会

第12号

サッカーの魅力

前部長 鈴木 中

何ヵ月振りかで四十雀の若手のメンバーの中に入ってボールを蹴った。(平成3年リーグ最終戦)

最近少しづつ体慣らしをして、動いている為か公式戦30分を何とかお荷物にならずに仲間入りする事が出来た。

サッカーと云うスポーツは大変教育的な男のスポーツだと思う。チームワーク即ち自分だけのことにとらわれずチームのために自分を犠牲にすることもある。子供達にとっても大変有意義なことが多い。体を鍛える、頭を使う、自立心を養う、協調性を身につける…等々いいことづくめである。

私の様に永年サッカーを教えている目から見ると、好きなplayは派手に点を取る事より、地味だけれどどうなるような良いパスが出された時、身を呈して相手のballをうばい取って味方に渡した時、そんな時すばらしさや、美しさを感じます。もちろんアクロバットの華麗なplayもすばらしいと思います。

しかし私の好きなplayはあまり人にはわからないが、その選手が自分だけの得意技を使って良いplayをしてニヤニヤしている時何となく男の美学を感じます。

ウイングplayerが絶妙のセンターリングを入れてCFが得点し、観衆から喝采を浴びている時一人ニヤニヤしながら、“良いパスがあれば得点なんて誰でも出来るのだ”と心の中で思っている時が、一番気持ちの良い時なのです。

年を取って四十雀のサッカーはどうすれば良いのだろう。勝った負けたは二の次の様な気がする。試合が終わって、こち良い疲労と満足感を味わうにはどんなサッカーをすれば良いのだろうか。

味のある魅力あふれる年寄のサッカーとはどんなものだろうか。人様々で良いと思うが、「あるレベル以上の体力と気力の上に乗って、良いplay、良いpassのサッカー」が目指すものの様な気がする。納得の出来るサッカーをやる為にはそれなりの準備が必要だろう。次の試合のスケジュールに合わせて準備とトレーニングそして満足のできるplayをしてうまいビールを飲む。体のアチコチの痛い、こち良い疲労は次の日からの仕事には決してマイナスにはならないだろう。

あるレベル以上の体力を維持する為には涙ぐましい努力を必要とするかも知れない。そんな努力をしようとする強い意志があれば四十雀のサッカー選手の資格は十分あると云って良いだろう。

「湘南ペガサス15周年を迎えて」

27年卒 山本 修

” 第2回四十雀リーグ準優勝”

湘南ペガサスサッカークラブのチーム結成後初めての練習試合が昭和53年12月に開催され、それから5年間、昭和58年までの記録を振り返ってみると、年に5～10回程度集まって藤沢四十雀、茅ヶ崎四十雀などを対戦相手の親善交流試合という活動内容であった。

昭和59年('84)に神奈川県サッカー協会都市サッカー連盟が組織されて第1回都市四十雀サッカーリーグが開催された機会にペガサスもこれに加入し、以来年間試合回数も15～20回に増加し、この四十雀リーグの試合がクラブの年間活動の中心となっている。

第1回四十雀リーグは参加16チーム、4チームづつの予選リーグの後8チームの決勝トーナメントで実施され、ペガサスは予選2位、決勝トーナメント1回戦敗退という成績であった。

この年までは年間主要活動が親善交流試合であったことから、試合の出場メンバー編成ポジション選定もかなり適当にやられていて、当時の試合案内連絡の世話をしてくれていた大内健嗣氏が前後半の出場メンバーのアレンジをしてくれていたようであるが、上記昭和59年の第1回リーグ終了後の忘年会あたりで、来年のリーグ戦には当クラブとしても監督を選任して試合のメンバー編成は一任しようという話が持ち出され、昭和60年度は私が監督ということになったと思うが記憶は定かでない。

昭和60年('85)の第2回四十雀リーグは参加15チーム、5チームの予選リーグで2位となり、決勝トーナメント1回戦は綾瀬四十雀1-1PK勝ち、準決勝の茅ヶ崎四十雀では前半0-1とリードされたのを逆転で3-2で勝ち、決勝は神奈川四十雀と対戦して0-3と敗れたが準優勝の好成績であった。準決勝で勝ったときの祝勝会は大磯の蒼浪閣で盛大に行われスポンサーの故小瀬村秀夫氏には大変お世話になりました。

翌61年('86)の第3回リーグからは参加チームも18チームに増加して2部リーグの体制が整備され、一方ペガサスも毎年40才になった若手メンバーが加入して私のような50才以上のメンバーの出場チャンスも少なくなってきたことから、この年監督を中原弘巳氏に引き継ぐと共に、私の選手登録も50才以上メンバーでリーグ新加入の神奈川四十雀Aチームへ移籍した。

” 五十雀リーグへの期待”

湘南ペガサスクラブ設立後10年経過すると発足当時のメンバーのほとんどが50才以上となり、毎年40才の新人が加入して四十雀リーグ1部公式戦に出場するのは40才代の若手メンバーが中心となり、50才以上のシニアメンバーは年数回の親善交流試合に参加するだけという状況になってきた。

平成元年('89)からは、横浜サッカー協会シニア連盟主催のマスターズOB大会に参加し、湘南ペガサスの50才以上だけでは人数不足のところを藤沢四十雀の応援を得て年1回の試合ではあるが、50才以上のメンバーで対戦する機会が確保されるようになった。

一昨年の暮れには設立後満12年経過してクラブ内の世代交代も十分に進んだことから、発足当時の年代層でペガサスシニアチームを編成する話がまもなく、栄光学園の50才以上OBの協力も得て数え年50才以上メンバーの選手登録により昨平成3年度2部リーグに加盟した。この機会に私も四十雀リーグ選手登録を神奈川Aチームから移して湘南シニアに復帰した。

平成3年('91)の成績は2勝1分け7敗11チーム中9位であったが、対戦相手の内50才以上の神奈川Aの他は40才代中心のチームばかりで平均年齢が10年若いチームを相手の試合は大変きびしい試合の連続でまずまずの善戦であったといえる。

四十雀リーグも今年('92)第9回を迎え、新たに2チーム増えて1部2部各12チームのリーグ戦が開始された。第9回にもなるということで、リーグ加盟の各チームも設立当時のメンバーの多くが50才以上となつて世代交替が進んでいるのは共通の問題であることが想定されることから、2年程前から個人的にリーグの連絡者会議などの機会がある度に、50代選手の多いチームにはシニアメンバーの第2チーム編成を呼びかけ、何とか五十雀リーグ発足への準備を提案してきた。

神奈川県協会としてもようやく今年度50才以上のオープン試合開催を企画する段階となり、四月の代表者会議では神奈川、湘南に加えて茅ヶ崎A、B、横浜OBの5チームが参加を表明し、藤沢、横須賀も単独では人数不足だが、合同で1チーム編成してはどうかという機運になり、来年度五十雀リーグスタートへの期待が高まっている。

高齢者でも、体力、走力が同じレベルの同年代のチームがお互いに対戦することがサッカーを長く楽しむための最良の方法と考えられる。

神奈川四十雀や東京四十雀クラブには、以前から40才代、50才代、60才代の年齢別チームが編成されており、毎年関東四十雀大会には、各県からそれぞれ年代別チームが集まって交流試合を楽しんでいる。

ペガサスシニアチームの発足により湘南OBだけでも60才以上の旧制中学チーム、50才以上のペガサスシニア、40才以上のペガサスと年代別のチーム編成ができるようになったのは嬉しいことであり、私も80才までグラウンドに立つことを目標にこれからも励みたいと考えている。

「OB会運営に関して」

45回 山口 晴夫

私の記憶によると、確か昭和40年代の後半である。当時、O・Bとしてよくグラウンドに顔を出されていた小泉さん（兄）に岩淵先生（湘南の英語の教諭であられた）より現役の遠征等に資金援助するため、広くO・Bに連絡せよと依頼があり、名簿と住所ファイルを渡された。大学生で毎週土曜日にボールを蹴りにいていた私は連絡係をするうちにこの仕事を手伝えることになった。

現在県会議員として活動なさっている小泉先輩はこのころ、鎌倉市内で様々な活動を行っていたため、お宅に簡易な印刷場を持っていた。そこでの謄写版印刷の裏半紙による会報が現在まで続いているものの最初の形なのである。現役の生徒が岩淵先生の言われたO・Bのお宅を訪ね、寄付をお願いするということが行われていたのもこの頃である。

このように、岩淵先生や鈴木 中先生の個人的な御尽力でなされてきた活動は、1月15日の蹴球祭を中心としたO・B会組織の運営へと徐々に移行されていった。数年ごとに大きなイベントが行われた。まず岩淵先生に関しては、還暦祝いサッカーと、悲しいことではあったが先生の死を悼み催された蹴球祭はO・Bの枠を超え多くのサッカー仲間を集めた。中でも、忙しさも何も感ぜずに奔走できたのは64年の全国選手権出場祝賀会であった。数百万円の会費、寄付金によりたくさん人の活動が行われ、何より多くのO・B諸兄が一同に会ったことは過去にないことであり、まさに岩淵先生のおつしやられた「現役あつてのO・B会」の感を強くしたものであった。

さて、近年、各年代ごとのサッカーを通じて交わされるつながりは盛んであるが、縦に連なる交流特に現役とのそれは蹴球祭でも試合の日程によってはかかわらないのが現状である。会費納入も近年横ばいを続け、昨年のように現役がグラウンドを求めジブシーを始めるとそれに充分対処できないありさまである。上記のような会の運営における現状を訴える意味を込めて今回、手作りの会報を発行することにしました。（予算の欠乏が一因です）

OB・OG諸氏！ 蹴球祭に集まりましょう！！

若手OB・OG！ 会費納入をしていますか??

4/24	○	1							
4/25	○	0	VS	1					
5/12	○	4							
5/16	○	0	VS	1					
7/27	●	0	VS	2					
7/28	●	1	VS	3					
7/29	●	0	VS	5					
7/30	●	1	VS	4					
8/8	○	1	VS	0					
8/9	○	1	VS	0					
9/12	○	6	VS	1					
9/15	△	0	VS	0					
9/20	●	2	VS	3					
9/27	○	5	VS	0					
9/27	●	1	VS	4					
10/23	○	2	VS	0					
10/31	○	3	VS	1					
11/7	●	1	VS	3					
11/13	○	3	VS	0					

「一度は神奈川県代表になろう！」

1992～93年度 キャプテン 熊沢 重典

「一度は神奈川県代表になろう」この事を目標に掲げ、私達は92年の高校総体敗戦後にチームを始動させました。

まず、6月からの練習は、例年通り走り込み、筋力トレーニングなど、精神的、肉体的逞しさを身につける事に重点を置きました。その上で、チームのテーマである「前線からの素早いディフェンス、走り負けをしないサッカー」という事を、一人一人の意識に植えつける為に、様々な強豪校と練習試合を行い、チームとしての強さを備える事を目指してゆきました。

こうして臨んだ公式戦は、最後の大会である高校総体では不本意な結果に終わってしまったものの、まず、高校選手権では、苦しみながらも、旭高校に勝って久々に二次予選に進出しました。次の新人大会では、ベスト8まで勝ち上がり、春の静岡遠征を6勝2敗で乗り切った後の、関東大会予選においては波に乗って勝ち抜き、代表決定戦に進出しました。そこで桐光学園に敗れ、代表の座は逃しはしましたが、3位になる事ができました。

結局は、力不足のために、目標を成し遂げられませんでしたでしたが、この成績には皆が満足しています。校舎改築により、グラウンドが無いというハンデを克服し、団結して精一杯やった結果だからです。また、1年生の時に、一緒に入部した22人全員が、誰一人中途退部すること無く、頑張ってきたからでもあります。

最後になりますが、今迄御指導いただいた藤塚先生、サポートしてくださった鈴木、長沢両先生、そして、様々な場面で力強い助言、援助を与え、私達を支えてくださった諸先輩方に感謝の意を表すと共に、引き続き、後輩達のさらなる躍進の為に、ご協力を御願致します。どうも有り難うございました。

☆ 1992~93年度 現役試合結果 ☆

【新入大会 地区シード決定戦】		↓ 8/10 ○ 3 VS 0 逗子
11/23 ● 0 VS 1 藤沢西		8/11 ○ 2 VS 0 隼人
11/28 ○ 1 VS 1 鶴嶺(PK)		10/10 ● 0 VS 3 藤沢西
11/29 ○ 1 VS 0 七里ヶ浜		【市民大会】
【新入大会 中央大会】 BEST-8		8/26 ○ 4 VS 0 湘南通信
1/15 ○ 10 VS 0 新磯		8/28 ● 0 VS 3 湘南台
1/17 ○ 1 VS 0 隼人		【新入大会 地区シード決定戦】
1/23 ○ 0 VS 0 県相模原(PK)		11/21 ○ 1 VS 0 茅ヶ崎北陵
1/24 ● 0 VS 4 藤沢西		11/23 ● 0 VS 2 湘南工科大附
【北相大会】		11/28 ● 2 VS 2 大船(PK)
12/28 ○ 2 VS 1 国士館		【練習試合】
○ 2 VS 1 東海相模		11/ 1 ○ 3 VS 0 相模大野
12/29 △ 0 VS 0 綾瀬西		11/14 ○ 1 VS 0 松陽
○ 4 VS 0 平塚江南		11/15 ○ 1 VS 0 鎌倉
12/30 ○ 1 VS 0 厚木南		12/12 ○ 2 VS 0 平塚江南
● 0 VS 1 越生		12/20 ● 0 VS 1 鶴嶺
【湘南地区大会】		12/23 ○ 1 VS 0 深沢
2/11 ● 0 VS 1 湘南工科大附		1/ 6 ● 0 VS 2 日大藤沢
【静岡遠征】 6勝2敗		1/ 9 ○ 2 VS 0 港南台
3/27 ○ 1 VS 0 東葛飾		1/30 ● 0 VS 1 茅ヶ崎北陵
○ 1 VS 0 青森五戸		2/ 6 ○ 1 VS 0 湘南台
3/28 ○ 1 VS 0 大和南		3/14 ○ 3 VS 0 横須賀大津
○ 7 VS 0 聖光		3/21 △ 2 VS 2 有馬
3/29 ○ 4 VS 1 仙台第二		3/23 ● 0 VS 1 藤沢北陵
○ 1 VS 0 静岡工業		3/25 ○ 2 VS 0 大船
3/30 ● 0 VS 2 前橋育英		4/ 2 ● 0 VS 1 光陵
● 0 VS 1 愛知		5/ 2 ● 0 VS 3 茅ヶ崎北陵
【筑波定期戦】		5/ 5 △ 1 VS 1 湘南台
4/3 ○ 3 VS 0 筑波大附		6/10 ○ 2 VS 1 藤嶺
【関東大会県予選】 BEST-4		6/12 ○ 1 VS 0 湘南選抜
4/11 ○ 2 VS 1 新城		6/13 ○ 1 VS 0 希望ヶ丘
4/17 ○ 1 VS 0 城山		7/ 4 ● 1 VS 2 青山学院大学
4/18 ○ 0 VS 0 旭(PK)		7/10 ○ 2 VS 1 有馬
4/24 ○ 1 VS 0 湘南台		7/20 ● 0 VS 1 筑波大学
4/25 ● 0 VS 1 桐光学園		7/21 ● 0 VS 4 筑波大学
【浦和高校定期戦】		7/28 ● 0 VS 4 新羽
5/12 ○ 4 VS 1 浦和		8/ 3 ○ 3 VS 0 鹿島
【インターハイ県予選】		8/ 4 ● 0 VS 2 鹿島アントラーズユース
5/16 ● 0 VS 1 大磯		9/12 ○ 6 VS 1 鎌倉
【湘南リッパユース】 0勝4敗		9/15 △ 0 VS 0 横浜マリノスユース
7/27 ● 0 VS 2 七里ヶ浜		9/20 ● 2 VS 3 平塚ヘルマーユース
7/28 ● 1 VS 3 浜名		○ 5 VS 0 F.C.町田ユース
7/29 ● 0 VS 5 上野工業		9/27 ● 1 VS 4 川崎ヘルティエユース
7/30 ● 1 VS 4 機山工業		10/23 ○ 2 VS 0 深沢
【高校選手権県予選】 BEST-16		10/31 ○ 3 VS 1 七里ヶ浜
8/ 8 ○ 1 VS 0 柏陽		11/ 7 ● 1 VS 3 鶴嶺
8/ 9 ○ 1 VS 0 平塚工業 ↑		11/13 ○ 3 VS 0 大清水

蹴球祭・総会のお知らせ

多数の御参加を！！

1月15日(祝) 総会：藤沢市湘南台1丁目8番
湘南台公民館会議室(湘南台文化センター内)
蹴球祭：藤沢市湘南台7丁目18番
藤沢市立湘南台中学校

10:00~10:45 総会
11:00~15:00 蹴球祭
場所については、地図を参照して下さい。
(最寄り駅 小田急線 湘南台駅)

お願い

◎6年度会費納入の件

5年度は皆様の御協力ありがとうございました。本年もよろしくお願いいたします。

・社会人 5,000円(27回~)

・学生 3,000円

蹴球祭当日、受け付けを致しますが、御欠席の方は同封の用紙にてお振込み下さるようお願いいたします。なお、下記銀行口座も従来通りでございますのでご利用下さい。

横浜銀行 本店 普通預金
口座番号 019166
湘南高校サッカー部OB会
安保隆文 TEL 0467-22-1794

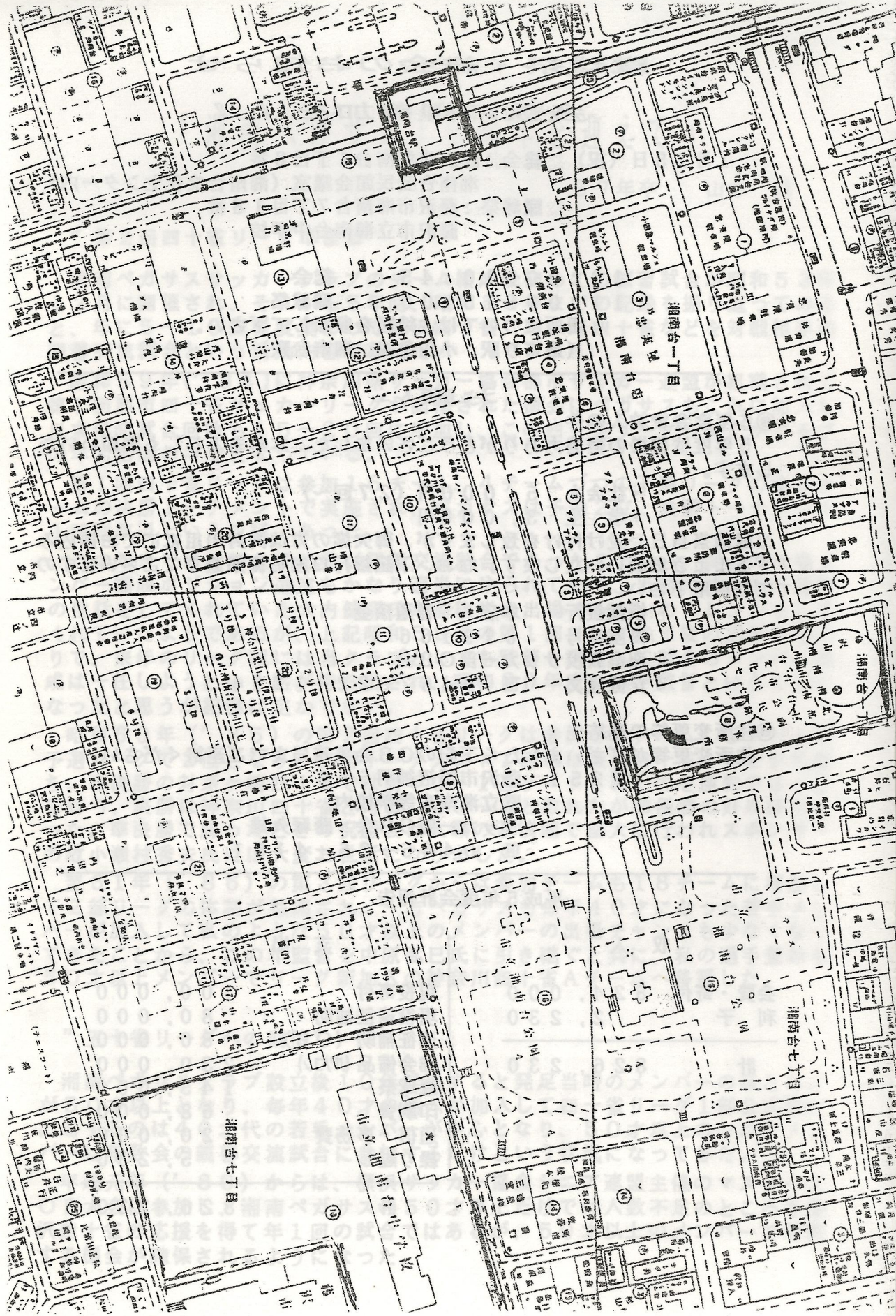
◎住所変更等の連絡先

住所変更等がございましたら下記のOB会事務局までご連絡ください。

〒251 藤沢市鶴沼神明5-6
県立湘南高等学校内
サッカー部OB会 藤塚久雄
TEL 0466-26-4151

平成5年度会計報告

収 入		支 出	
会費・寄付	824,000	現役寄付	100,000
利子	2,230	現役遠征補助	80,000
		遠征補助(OB)	80,000
		OB会備品(パソコン)	230,000
		蹴球祭	143,000
		印刷費	68,000
		通信・事務費	120,000
		繰り越し	5,230
計	826,230		
		計	826,230



湘南台一丁目
湘南台

湘南台一丁目
湘南台公園

湘南台七丁目
湘南台公園

湘南台七丁目

湘南台中央学校